はじめに

北陸新幹線が金沢まで延伸・開業すれば、富山―東京間が約２時間で結ばれると言われている。
それは、私たちの首都圏との往来に画期的な便利性をもたらすだけでなく、これまで緩やかに、時間をかけて育んできた富山の県民性や文化、生活習慣といったことまでが、一気に様変わりする可能性を秘めているのではないだろうか。
北陸新幹線の開業が、変わる必要のないものは守りながらも、新しい富山へと飛躍する歴史的なエポックになることを期待したい。

北陸新幹線は、昭和４２年１２月に「北回り新幹線建設促進同盟」が結成されて以来、実に４０年以上の歳月を経て、おおよそ３年後の平成２７年３月までに、先行して開業している東京―長野を延伸して、金沢までの区間が開業する見通しとなった。

平成１３年には上越・富山間の着工が認可され、県内では高架橋工事がほぼ終了し、軌道の敷設工事や電気関連工事の段階に進んでおり、日に日に新幹線開業の機運が高まりつつある。

しかし、新幹線の開業は沿線各地に様々な影響を及ぼすことを、すでに開業している沿線の自治体や経済団体、研究機関などが各種のデータを示して報告している。

富山県内においても、県をはじめ停車駅が設けられる都市の市役所、学術研究機関などが、様々な視点から北陸新幹線開業の影響について報告をまとめて発表している。

当所は、これまでに報告されたこれらの資料を踏まえた上で、開業まであと３年に迫った現時点で考えられる諸課題について情報を収集し、整理することを目的として、平成２３年４月に所内の職員をメンバーとするプロジェクトチームを発足させ、活動をスタートした。

本報告書で整理された課題や若干の提案の試みが、北陸新幹線の開業を契機として、富山市をはじめ地域の活性化に少しでも貢献できれば幸いである。

平成２４年３月
富山商工会議所